

第 7 次三重県医療計画 評価表【へき地医療対策】

令和 5 年 3 月 3 1 日現在

数値目標の状況

項目	策定時	目標	1 年後	2 年後	3 年後	4 年後	5 年後	6 年後
へき地診療所等からの代診医派遣依頼応需率	100% 【H29】	100%	100% 【H30】	100% 【R元】	100% 【R2】	100% 【R3】	100% 【R4】	
へき地診療所に勤務する常勤医師数	16 人 【H29】	17 人	16 人 【H30】	16 人 【R元】	17 人 【R2】	17 人 【R3】	17 人 【R4】	
三重県地域医療研修センター研修医受入数（累計数）	259 人 【H29】	469 人	268 人 【H30】	282 人 【R元】	302 人 【R2】	325 人 【R3】	352 人 【R4】	

現状と課題

取組方向 1：へき地等の医療提供体制の維持・確保

- へき地診療所の代診医の派遣について、へき地医療支援機構の調整のもとに実施した派遣の令和 4 年度実績は応需率 100%でした。調整が難航するケースや、申請日から派遣日までの期間が短い場合等にも対応できるよう、へき地医療支援機構からへき地医療拠点病院に代診医派遣への積極的な協力を要請する必要があります。
- へき地医療拠点病院がへき地診療所等への支援のために、独自に医師派遣等の取組を実施（県立一志病院から津市家庭医療クリニック及び津市国民健康保険竹原診療所へ、紀南病院から紀和診療所へそれぞれ医師を派遣）しており、これらを含めた令和 4 年度の実績は、464 件となっています。
- へき地医療拠点病院が実施する無医地区等への巡回診療については、紀南病院から紀宝町の浅里地区へ隔週 1 回、神川・育生地区へ毎週 1 回、県立志摩病院から志摩市の和具（間崎）地区へ隔週 1 回、県立一志病院（津市家庭医療クリニック）から津市の伊勢地地区へ毎週 1 回の運用となっています。その他にも、熊野市立紀和診療所から熊野市内の 5 地区へ、町立南伊勢病院から南伊勢町の古和浦地区へ、それぞれ隔週 1 回で巡回診療を行っています。
- へき地診療所の施設・設備について、令和 4 年度は 5 箇所医療機器整備を支援しています。また、運営費については、8 箇所に対し支援をしています。
- ドクターヘリは、東紀州地域をはじめとする県内全域の三次救急医療体制の充実・強化につながっており、令和 4 年度は、救急出動として 203 件（うち東紀州地域：54 件）、病院間搬送として 41 件（うち東紀州地域：6 件）出動しました。また、三重県、奈良県、和

歌山県の三県で締結した相互応援協定による運航を安全かつ円滑に実施するため、三県フライトスタッフ会議を開催しました。

- ・ 歯科医師会等と連携し、へき地を含む地域の在宅訪問歯科診療の取組を支援しました。また、離島の保育所において、歯科疾患の予防に関する講話や歯みがき指導、歯科の視点からの食育に関する指導を行いました。
- ・ 将来的なへき地診療所の運営維持・確保のため、鳥羽市において、複数医師による医療チームで複数診療所を管理するグループ診療の体制整備が進められ、離島4島にある診療所と本土の3診療所で、クラウド型電子カルテと遠隔診療支援システムを用いた取組が引き続き行われています。
- ・ 大台町、多気町、明和町、度会町、大紀町及び紀北町で構成する「三重県広域連携スーパーシティ推進協議会」の取組として、大台町の報徳診療所において、健康測定器具を搭載した車両を用いて、看護師等が患者の自宅近くの集会所まで出向き、診療所にいる医師がオンライン診療、薬の遠隔処方、服薬指導を行う実証実験が行われました（5ヶ所の集会所で計6回実施）。

取組方向2：へき地医療を担う医師・看護師等の育成・確保

- ・ 自治医科大学義務年限内医師及び三重県医師キャリアサポート制度活用医師をへき地医療機関に派遣・配置（6医療機関の内科へ計16名）しました。
- ・ 地域枠B入学者が、入学志願時に推薦を受けた病院（推薦病院）では勤務困難な診療科を選択した場合、本人と病院・大学等の関係者が、勤務方法等について協議を行う仕組みを構築しました。
- ・ へき地医療においてニーズが高く、幅広い診療ができる総合診療医を育成するため、人材育成経費の一部を支援しました。また、へき地等における医療・介護連携や多職種連携によるプライマリ・ケアのスキルを習得できるよう、県立一志病院に設置したプライマリ・ケアセンターにおいて、看護師やケアマネージャーを対象に研修会等を2回実施しました（12月末時点）。
- ・ 三重県ナースセンターにおいて、離職した看護職員の再就業のための情報提供や就業斡旋を行い、ナースバンク事業の求職者7,234名のうち427名が、看護職員として復職しました。また、県内の医療機関等における離職、退職者等の潜在看護職員の情報を積極的に収集したほか、看護職員として再就業を希望する潜在看護師等を対象に復職研修を実施し、17名のうち14名が復職しました。さらに、平成27年10月に施行された免許保持者の届出制度の周知を図り、これまでに3,156名の届出が行われました。
- ・ 新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、「みえ地域医療オンラインセミナー」として、県内の医療従事者を目指す高校生（105名）を対象に、紀南病院等のオンライン訪問や医師・看護師など医療従事者の仕事紹介等を行いました。
- ・ 高校生を対象としたオンライン1日看護体験の実施（42校、627名が参加）、看護についての関心を高め理解を深めるための「みえ看護フェスタ」の特設サイト開設などの取組を通じて、地域医療をめざす中高生への動機づけの機会提供を行いました。

- ・三重大学医学部（医学科及び看護学科）学生を対象とした全市町での保健医療教育や地域卒学生を対象とした市町訪問、三重県医師修学資金貸与学生及び地域卒学生等を対象とした地域医療体験実習等を通じて、学生のへき地医療等への関心を深める機会としました。また、三重県地域医療講義では、三重大学医学部医学科1年生全員を対象に実施した受講者へのアンケートの結果、「実際の現場の話が聞けてよかった」「地域医療のイメージがつかめた」など、9割を超える回答者から満足を得られたとする評価を受けました。
- ・へき地等地域医療に従事する医師の育成に向けて、平成21年4月に紀南病院に設置した三重県地域医療研修センターにおいて、研修医等を対象に無医地区への巡回診療や往診など実践的な地域医療研修を提供し、令和4年度は27名を受け入れ、開設時からの累計数は352名となりました。なお、近年の傾向として、県内病院からの受入れは増加している一方、新型コロナウイルス感染症の拡大により、県外病院からの受入れが大幅に減少しています。
- ・三重県へき地医療支援機構の取組として、「へき地医療オンライン体験実習」（医学生17名、7医療機関が参加）を開催しました。
- ・医師無料職業紹介事業の活用等により、へき地に勤務する医師の確保に取り組みました。しかし、バディホスピタルシステムによる診療支援（伊勢赤十字病院から尾鷲総合病院への常勤医師派遣）が一部休止するなどの課題があります。
- ・労働者派遣にかかる法令及び国の通知に基づき、へき地に派遣される看護師等を対象に、へき地の医療機関において円滑に業務を行うための知識や地域の状況等についての事前研修を行っています。

令和5年度の取組方向

取組方向1：へき地等の医療提供体制の維持・確保

- ・へき地医療拠点病院からへき地診療所への代診医派遣の調整が難航するケースが生じているほか、無医地区等への巡回診療等の継続も厳しい状況となっていることから、事業実施状況を確認するとともに、主要3事業（へき地への巡回診療、へき地診療所等への医師派遣、代診医派遣）の実績向上と平準化に向けた連携強化を図ります。
- ・へき地診療所の後方支援体制の確保や住民に対する医療提供体制の充実を図るため、今後も引き続き、医療機器の更新や設備整備への支援を行います。
- ・ドクターヘリについて、へき地等においても効果的に活用するため、引き続き、安全かつ円滑な運航体制の強化を図ります。
- ・引き続き、へき地での在宅訪問歯科診療の充実をめざして、歯科医療関係者への在宅歯科診療研修を行います。また、歯と口腔の自己管理ができるよう、へき地住民に対する歯科保健指導を行います。
- ・へき地におけるオンライン診療に関して、県内外の先進事例や県内地域のニーズの調査等を行い、本県の実情に合ったモデルを構築し、市町や地域の医療機関をはじめとした関係者と共有して、普及につなげます。

取組方向2：へき地医療を担う医師・看護師等の育成・確保

- ・自治医科大学義務年限内医師及び三重県医師キャリアサポート制度活用医師をへき地医療機関に派遣・配置するとともに、義務年限終了後のキャリアサポート制度の利用促進を図ります。
- ・総合診療医の育成にかかる経費支援を引き続き行います。また、プライマリ・ケアセンターを設置し、プライマリ・ケアのスキルの習得に必要な研修を医療従事者やケアマネージャー等の幅広い職種を対象に実施します。
- ・へき地医療を担う医師や看護師等を確保するため、へき地医療に対する不安を払拭する必要があることから、医師や看護師等を志す医学生・看護学生・中高校生を対象にした「みえ地域医療メディカルスクール」を継続して開催し、地域で活躍する医師や看護師等との交流を通じて、へき地医療の魅力に触れる機会を提供し、地域医療への啓発を行います。
- ・へき地医療を担う看護師等の育成確保のため、今後も引き続き三重県ナースセンターや看護協会などの関係機関と連携して看護職員の復職を支援し、就業に結びつけるための情報提供の充実や就業支援の取組を進めます。また、看護体験や出前授業、「みえ看護フェスタ」等の取組を通じて、地域医療をめざす中高校生への動機づけの機会提供を行っていきます。
- ・医学生を対象に、へき地医療体験実習やへき地医療研修会、三重県地域医療講義等を通じ、継続して地域医療教育の充実を図り、今後も三重大学医学部医学・看護学教育センターなど関係機関と連携して地域医療の担い手の育成を進めます。
- ・三重県地域医療研修センターにおいて、地域医療の担い手の確保・定着に向けて、県内外からの研修医呼び込みに努めるとともに、研修医のニーズに応じた効果的な研修を行っていくため、県内へき地・離島の医療機関とより一層の連携を図ります。
- ・医師無料職業紹介事業の一環である「みえ医師バンク」ホームページの改修を行い、県外で勤務する医師の招致を強化し、へき地医療機関に従事する医師の確保に努めます。
- ・バディホスピタルシステムの活用による医師派遣が継続されるよう、関係医療機関に働きかけを行います。
- ・労働者派遣制度に基づき、へき地の医療機関に派遣された看護師等が円滑に業務を行えるよう、必要に応じて事前研修を実施します。